



広島県立広島中学校・広島高等学校

SGH通信



SUPERGLOBAL HIGH SCHOOL

第 5 号 平成 30 年 12 月 18 日

執筆担当者：松岡 真徳

高1 山口大学准教授 徳久 悟 先生 講演会 (10月16日実施)

Topic 1 目的と講演会の概要

「持続可能な社会の構築」に貢献できるグローバル・リーダー育成のため、フィールドワークに基づく課題発見と協働作業による問題解決の方法についての実践的実例を聴く機会として、「デザインとデザイン科学」という演題で講演していただきました。

デザイン科学とは「科学的手法」に基づいた、新しい満足や新しい価値を創造する学問のことです。実例として、インターネットを使って友達同士でオリジナルブーケをデザインして贈る「bouquet」や、フィリピン等の開発途上国の人たちがココナッツ酒づくりを通じて現金収入を得る「Wanic」などを紹介していただきました。

デザイン科学では、未だ存在しないものや価値を創造するための問題解決手法であるデザイン手法を用いることで、造形（色・かたち）という狭義のデザインにとどまらず、もっと広い範囲での体験（生活・社会）といった広義のデザインを創り出すことができると学びました。



Topic 2 生徒の感想から

- 今日の話だけだと高校生活や将来どのようにしてデザイン科学が活用できるかは、まだつかめませんでした。しかし、先生はこのデザイン科学を応用して世界を飛び回っておられると聞き、私も将来、先生のように世界を飛び回って、新しい満足を創造できるような人になりたいと思いました。人が求める新しい満足を創造する、科学的手法であるデザイン科学についてももっとしっかり知りたいと思いました。
- フィールドワークの大切さはこれまでもいろいろな場面で聞いていたが、今回の講演を聞いてより大切であると強く感じる事ができた。「なぜ?」「なぜ?」と繰り返し考え考えを深めたり関連する事柄に思考を広げたりしていくデザインプロセスの考え方は、新しく製品を創り出すということだけでなく、日々の勉強にも応用できるのではと考えた。
- 今日の講演会を通して、ある課題を解決するためのデザインがあることや、デザインの中にも複数の領域やプロセスがあることがわかった。この課題解決のための手法を用いることで、自分たちの生活に生かすものが生み出せると知った。またフィールドワークをすることで、ネット上の情報だけでは集められない貴重な意見を収集したり発見したりできるので、私も海外でのワークショップを積極的に行ってみたいと感じた。

高1 持続可能な社会研究ワークショップ ～哲学対話～

立教大学教授 河野 哲也 先生 (11月28日実施)

Topic 1 ワークショップの目的

高校1年の課題研究基礎では、「持続可能な社会とは何か」、「それを阻害する問題とは何か」、「自らが解決していきたい問題とは何か」ということを考え、「持続可能な社会の構築に向けて、自らが解決していきたい課題を設定すること」を目的として授業を実施しています。

このワークショップでは、「哲学対話」の手法を用いて、これまで当たり前と思っていた「持続可能な社会とは、そもそもどのような社会なのか」、「本当に必要なのか」を深く考えるという学習をしました。一人一人が、持続可能な社会についての理解を深め、協働的な活動によって真理をとらえようとする姿勢を身に付けることを目指しています。今後1年生は、今回のワークショップで学んだことを、3学期に取り組む「社会的課題についての論文作成」に活かしていきます。

Topic 2 哲学対話とは

「哲学対話」とは、簡単には答えの出ない問題について、根本的に、集団での対話を通じて考えていく活動です。たとえば、「正義とは何か」や「どうすれば人は幸福になれるのか」といった問いが、哲学対話の問いになり得ます。これらの問いに対してさらに多面的な複数の問いを考えることで、どのように自分や他者が物事を捉えているのかを相互に知り合ったり、より発展的に物事を追及しようとする姿勢を身に付けたりしました。

文化や価値観が同じではない地域・社会が増加する現代社会では、文化的価値を共有していない人々ともコミュニケーションをとり、共生できる社会を協働で築いていくことが求められます。「哲学対話」は、グローバル時代において、全ての人に求められる力を育成する取組なのです。

Topic 3 ワークショップの内容

まず全員が一堂に会し、立教大学大学院生と高校1年生生徒5名の「模擬哲学対話」を聴取することで、河野先生の指導の下、「哲学対話での問いの作り方」を教わりました。

「なぜそう言えるのですか」「持続可能とは、そもそも何が持続することなのか」といった問いに戸惑いながらも、前に出た6名は自分の意見を考えて相手に回答をしていきました。

その後、各クラスでグループごとに「哲学対話」の実際を行い、クラス代表のグループは、全員の前で自分達の対話の内容を発表しました。グループの発表が終わるごとに、河野先生や立教大学大学院生から、さらに哲学的な問いかけがなされ、会場で発表を聞いていた高校1年生全員の思考を深めるワークショップになりました。



Topic 4 生徒の感想から

- 自分の意見を言う時は、しっかり考えてから言うことが大切だとわかりました。友達が話したことはしっかり聞いてあげて、質問を返してあげることが大切だとわかりました。今回の哲学対話で時間を気にせずじっくりと話し合うことが大事だとわかりました。じっくりと話し合うことがお互いの考えを深めることにつながると思いました。
- 普段の授業では、決められた時間内で答えを導かないといけないことが多い中、今回は時間をかけて考えを深めていくことができとても新鮮だった。最初は堅苦しいものだと思っていたけれど、やっていくうちに楽しくなっていく、持続可能な社会など今まであまり考えてこなかったのも、このような機会が与えられ本当に良かったと思う。今後も対話の際に今回のような手法を用いることで、いろいろな課題を解決していこうと思う。なんだか達成感が得られた授業だった。